㊐ 大きな○をあげます

保育園や幼稚園に行ってはいても，小学校への入学は子どもたちにとって大きな第１歩です。希望に夢ふくらませて学校にやって来る子どもたち，付き添いのお父さん，お母さんにとっても楽しい思い出となり，これからの生活を考える機会となるようにしたいものです。

入学式の前には，新６年生の手で，学校の玄関，１年生の教室と廊下はもちろん，校内の見学で歩くすべてのコースが歓迎ムード一色に包まれます。２年生の子どもたちは呼びかけの練習です。きっと，去年のことを思い出しながら練習しているのでしょう。私のほうは入学式のあいさつの準備にとりかかります。

あいさつの前に，新入生の氏名点呼があります。○○君，○○さんと呼ばれると，ちょっと高めのイスから飛び下りて「ハイ」と元気な声で返事してくれます。私は，壇上から声にこそ出しませんが,「元気だね」「あしたからがんばろうね」「元気に来るんだよ」と語りかけます。点呼が終わると「以上 120 名」のように報告があります。

高等学校の場合は，これに続いて校長の

「以上の者，本校生徒として入学を許可します」

ということになります。小・中学校でも，このような入学許可をしていると話される方がおられましたが，小・中学校は義務教育の学校で

す。許可された者だけが入学するところではありません。みんなが行く学校です。そんなことをおっしゃった先生に「それはおかしいですよ」とお話したことがありました。私は，
「きょうから皆さんは生駒小学校の子どもです。学校へ元気に来てください。待っています」
のような言葉かけをするようにしてきました。また，あるときは，こんなふうに言ったことがあります。
「元気に返事をするという初めての勉強がとっても上手にできました。大きな〇をあげます」
そして，両手で大きな丸を作り，子どもたちへのごほうびにしました。保護者席からパチパチと拍手をいただいたことを思い出します。
　このあとは学校長式辞です。しかし，とても長くは話を聞いておれない 1 年生です。1 対 1 であればともかく，大勢に向かっての話は聞き取りにくい子どもたちです。私は，短くということと同時に小学校で初めて聞くお話として印象に残るものとなるように工夫しました。
　きのうの夕方，あしたは入学式だなあ。教室はきれいになったかな。運動場はどうかなと学校の中を歩いてみました。すると，
「あしたは何の日か知ってる？」
という声が聞こえてきました。そして，
「入学式だよ」「1 年生が来るんだよ」「うれしいね」
という声が聞こえました。
　誰がお話していたのか分かりませんでしたが，サクラの木だったような気がします。みんなが待っていた入学です。おめでとう。明日から元気に来てください。楽しく勉強し，元気に遊びましょう。
　この話，1 年しか使えません。参列する 2 年生にとっては去年の話です。覚えていないと思いますが「なんや，去年といっしょやんか」

ということになるかもしれません。先生たちも同じです。
「面白い話だね。子どもたちも一生懸命に聞いてるみたい」
「ちょっと待って。この話，聞いたことない？」
「ああ，去年と同じ話だ。日々新たな工夫で毎日の学習をなんて言ってはるのにね」
ということになっては困ります。そんな訳でも緊張するのが式辞なのです。

話は余談になりますが，披露宴でのお祝いの言葉も同じです。私が生駒台小学校に勤務していた 4 年間，若い先生が多かったこの学校では，年平均 4 回，計 15 回も披露宴にご招待いただきました。その席での祝辞です。乾杯の前の静かなひととき，前に座っているのは，お互いに招き招かれという友達同士，同僚です。おまけに，たいていの場合，これがビデオに録画されて残ります。
「私のときのお話，〇〇先生のときと同じだったんだ！」
これは大事だということは繰り返して出てくるにしても，A先生にはA先生のための，B先生にはB先生のためのお祝いの言葉でなければならないと思います。

こうした式辞やあいさつということから遠のいて数年，しかし，式辞というと思い出されるのがF先生です。教頭として私を助け，その後，現職の校長としてお亡くなりになったのですが，お通夜の席で奥様から
「『竹中校長先生のお話を勉強するねん』と式の前などには先生のテープを聞いていたものです」
と聞きました。校長として力を発揮されたF先生，将来の仕事のためにと，教頭のころに録音されていたのです。周りの人たちすべてから学びとろうと努力されていた先生に，私も学びたいと思いました。

とにかく，校長というのはあいさつや講話の機会が多いものです。公立学校勤務の最後の年であった平成7年の4月から5月にかけての手帳から，あいさつをした会合を拾ってみると，入学式や離着任式，始業式，職員会議，一斉下校会や避難訓練，1年生を迎える会，育友会総会や歓送迎会などの校内行事，奈良県小学校長会の総会や役員会，近畿小学校長会理事会や奈良大会の準備会など，この 2 か月だけで，28 も並んでいますし，奈良県立教育研究所主催の新任校長研修講座や初任者研修講座での講話があります。

そんな会であいさつするとき思い出されるのが，

「竹中君，校長はあいさつで勝負するというのを知ってるか。短いあいさつの中で自分の思いを語り，方向性を示さなあかんで」

という先輩の言葉でした。

ですから，通り一遍のものにならないように気をつけました。校長会の役員会などでは「お忙しいところをお集まりいただきありがとうございます」というお礼を申し上げることは必要でしょうが，忙しいところを来てくださった方々に，「来て良かった。この話が聞けて」と思っていただけるようなあいさつをしたいと考えました。

卒業式の式辞でもちょっとした小道具を準備したり，途中に懐かしい音楽（地球の環境について考える授業でいっしょに聴いた歌「まわる宇宙船」です）を挿入したりするなど，若い先生たちに話し方の参考にしてもらうようにしました。また，時折はポケットに忍ばせたテープレコーダーに録り，反省材料にしました。それは，昭和 30 年代に授業を録音し，無駄な話，分かりにくい話を見つけ出し，自分の話し方をより良いものにしようとしたときと同じです。そして，今も懐かしい思い出なのです。